

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年12月2日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.70】

息子の社長就任をめぐる支離滅裂な松崎証言！

東労組元会長の松崎明氏の息子で組合員でもないA氏は、JR総連関連会社「さつき企画」の社長に就任していたが、松崎氏はこのことについて「週刊現代裁判」の尋問の中で、以下の通り証言しているが、その内容は支離滅裂でよくわからない。

(被告代理人)さつき企画は、株主があなたお一人ということかもしれませんが、基本的にはJR東労組、あるいはJR総連の関連の会社だろうと思いますが、そういう会社に東労組、あるいは総連の組合員でない人が取締役、あるいは代表取締役に入るということは極めて異例なのではないでしょうか。(松崎)異例ではないと思いますが、私はそのことは望んでおりませんでした。(代理人)普通に言うと、あなたが唯一の株主であって100%(注:株式を)保有しているんだと、そういう会社であり、なおかつ東労組、総連の関連の会社であると、そういう会社に、あなたの息子さんであり、なおかつ東労組、総連の組合員でない人が入ると、やっぱりこれは襟を正すというような意味合いでも、仮に誰かが、息子さん適任ですよというようなお話があったとしても、それはさせませんというふうにしつたりということは考えなかったですか。(松崎)おっしゃる通り、いたしました。(代理人)そしたら。(松崎)そしたら、Aを社長にすべきだと、こういう主張を強引にしたのが新潟のMという人です。私は、息子を社長にすれば、とやかうるさい方々がいろいろ言うであろうことは当然予想できましたから、私も反対だし、倅もそれはならないと言っておりました。(代理人)それはいいんだけど、(注:A氏は取締役に)なりましたよね。(松崎)なりました。(代理人)あなたも賛成したんでしょう。(松崎)しません。(代理人)100%の株式を保有している唯一の株主が絶対に反対だと言っても、取締役に選任できたんですか。(松崎)それは、推薦する人がいたからそうなったんです。(代理人)株式会社の取締役ってどこで選任されるんですか。(松崎)それは、さつき企画に協力してくれる人たちの互選でそうなったと思います。(代理人)さつき企画は株式会社ですか。(松崎)そうです。(代理人)株主総会は開いていたんですか。(松崎)もちろんです。(代理人)普通、どんな株式会社でも取締役は株主総会で選任するんですけれども、さつき企画はそうじゃなかったんですか。(松崎)いや、そうだと思いますよ。(代理人)あなたは賛成したんでしょう。(松崎)私はその総会に出ていなくて、いや、出ているかもしれませんが、取締役にすることは承認したかもしれませんが、社長になることは反対でありましたから。(代理人)問題、分けましょうよ。Aさんが取締役にすることは賛成したんですか。(松崎)だと思いません。(代理人)賛成しなければできませんからね、なりっこはないんだから。(松崎)はい。

息子の社長就任に異を唱える者は「うるさい方々」なのか？！

「さつき企画」の唯一の株主としての自覚に欠ける、何ともあやふやな証言である。代理人の追及の通り、松崎氏の賛成なくして取締役の選任はできない。証言内容が正しいとすれば、松崎氏は息子の取締役就任に反対だったが、結局、賛成したということらしい。松崎氏は「とやかうるさい方々がいろいろ言うであろうことは当然予想できましたから」と述べているが、息子の社長就任に異を唱える者は「とやかうるさい方々」という認識なのだろう。新潟のM氏の名前が出てきたが、なぜ松崎氏が息子の取締役、代表取締役への就任に賛成したのか、彼の弁明について、次号で詳しく検証したい。